

家庭科学習指導案

平成29年6月9日（金）学習指導Ⅱ（被服室）6年3組 指導者

I 単 元 ミシン工房－自分だけの袋をつくろう－

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

よりよい生活の実現に向けて、楽しみながら布を用いた生活に役立つ物の製作をし、活用しようとする態度

①知識・技能

布を用いた袋の製作についての基礎的な知識と、それらに係る技能

②思考力・判断力・表現力等

布を用いた袋の製作について問いを見出し、解決する力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 快適な衣服と住まい (3) 生活に役立つ物の製作

ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。

イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。

ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。

(3) 本題材の学習とその価値

本題材では、ミシンを安全に取扱い、直線縫いで入れたい物に合った布を用いた袋の製作をする学習をする。その価値は、以下のとおりである。

布を用いた袋は、日常生活で使用する事が多く、子どもたちにとって身近な立体構成の布製品である。1枚の布を中表にした左右のわきと出し入れ口を縫い、持ち手を付けることで完成するため、これまで生活に役立つ布を用いた物の製作で身に付けた、平面構成の製作に係る知識と技能を活用しながら、発展的に立体構成の製作に係る基礎的な知識と技能を身に付けることに適している。そして、製作手順が容易で短時間に製作ができるため、試しの袋の製作から、実際に自分の布を用いた製作へと段階的に製作をする中で、自信や見通しをもって製作を進められるよさがある。また、ゆとりのもたせ方やミシンを用いた直線縫いに焦点化できることから、試行を繰り返す中で布を用いた袋の製作に必要な知識と技能を身に付けられるだけでなく、自分で見付けた改善点を次の製作に生かし、工夫して製作をすることができる。さらに、入れる物に合ったゆとりのもたせ方を考える必要性が生まれ、自分で大きさや形を自由に選択して、製作をすることができるため、製作の楽しさを感じることができる。

試しの袋の製作に用いる不織布は、丈夫で柔らかさがあり、子どもにとって扱いやすいものである。また、折ったりクリップで留めたりするだけで袋状になるため、物を出し入れしながら活

用する場面を試すことができ、ゆとりの必要性を実感を伴って理解することができる。

自ら製作をした袋を学校や家庭で実際に活用することは、その喜びや楽しさを感じ、生活に役立つ布を用いた物の製作をする意欲を、さらに高めることにつながる。また、活用後に仕上がりや実際の使いやすさを振り返ることは、生活の中で用途に応じて布製品を選択する際の着眼点を養うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「家族への贈り物をつくろう」で、家族の生活に役立つ物を考え、家族への感謝の気持ちを伝える贈り物の製作をする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「ミシンに挑戦しよう」において、生活に役立つ布を用いた物を考え、ミシンを用いた直線縫いでエプロンの製作をする学習に取り組んできた。そして、製作をしたエプロンを学校の調理実習や家庭生活での調理の際に活用したり、ミシンを用いた直線縫いによるほころびの直しや、生活に役立つ布を用いた物の製作を行ったりしてきている。

これらの学習や生活経験の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① ミシンを用いた直線縫いや返し縫いを試行した結果と、目標とする見本の縫い方とを比較して評価することを繰り返しながらミシン縫いの仕方を修正し、ミシン縫いの仕方についての知識と、それに係る技能を身に付けてきた。このような子どもたちが、布を用いた袋の製作に必要な知識と、それに係る技能を身に付け、さらに高められるように、ゆとりのもたせ方やミシン縫いの仕方を試行した結果と、目標とする見本のゆとりや縫い方とを比較して評価する活動を繰り返し設定する。
- ② 紙とビニールひもを用いた試しのエプロンの製作から、自分の布を用いた製作へと段階的に製作をし、自分の体に合ったエプロンの大きさやミシンを用いた直線縫いの仕方を考えてきた。このような子どもたちが、物を出し入れしやすいゆとりやミシン縫いの仕方を考えられるように、不織布とクリップを用いた試しの袋の製作から、自分の布を用いた製作へと段階的に活動を設定する。
- ③ 目標とする状態とよりよい生活を実現するための方法を求める課題「自分の体の大きさに合ったエプロンを作るには、どのようなことができればよいのだろう」を追究し、ミシンを用いて自分の体に合ったエプロンの製作をすることへの興味・関心を高めてきた。このような子どもたちが、ミシンを用いて入れたい物に合った袋の製作をすることへの興味・関心を高められるように、目標とする状態とよりよい生活を実現するための方法を求める課題「物を出し入れしやすく、入れたい物に合った袋をつくるには、どのようなことができればよいのだろう。」を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 入れたい物を出し入れ具合を確認しながら試しの袋の製作をすることを通して、入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量が分かる。

2 準備 不織布 クリップ 見本の袋

3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none">・エプロンを作ったときも、試しのエプロンを作って大きさを決めたな。今日は、試しの袋を作って、大きさを決めるのだな。 <p>2 試しの袋の製作をしながら、製作に必要な布の量を決める。</p> <ul style="list-style-type: none">・まずは、ノートやファイルの大きさを測って、その大きさどおりの袋で出し入れを試してみよう。・袋に入れることはできるけど、出し入れのたびにひっかかってしまうな。見本の袋と比べると、使いづらいな。・大きくすれば出し入れがしやすくてよいと思ったけど、今度は中がすかすかしすぎて入れた物が動いてしまうな。・友達の袋は、ぼくの袋より入れた物が動かなくて使いやすいそうだな。友達も僕の袋はゆとりがありすぎて使いづらいと言っているから、入れた物が動かないように、少し袋を小さくしようかな。・小さくして試してみたら、ノートやファイルの大きさよりも5, 6cmくらい大きくなったときが出し入れもしやすく、入れた物も動かないぞ。入れる物の大きさに6cmのゆとりの長さ、ぬいしろの長さを加えたら、布の横幅と縦幅を決められるな。 <p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・友達と何度も試しながら考えたら、袋の大きさと準備する布の量が分かったよ。早く袋を作りたいな。	<p>○入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量を明らかにするという目的意識をもてるように、前時にもった活動の見通しを問いかける。</p> <p>○入れたい物に合った袋の大きさを検討できるように、不織布をクリップで留めて物の出し入れを繰り返し試行するよう促す。</p> <p>○入れたい物に合った袋の大きさを見付けられるように、試行した方法の結果と目標とする状態となる見本の袋を比較するよう促す。</p> <p>○物に対して袋が大きすぎる子どもには、適度な大きさに気付けるように、中に入れた物の状態や使いやすさを問いかける。</p> <p>○入れたい物に合った袋の大きさを決められるように、入れる物の種類が同じペアで互いの入れたい物の出し入れを試行し、評価を伝え合うよう促す。</p> <p>○製作に必要な布の量を明らかにできるように、繰り返し試行したことを基に決めた袋のできあがりの大きさと、ぬいしろの長さを学習プリントに記述するよう促す。</p> <div data-bbox="794 1541 1401 1765" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">評価項目</p><p style="text-align: center;">入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量を記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言①></p></div> <p>○次時からの製作への意欲を高めることができるように、互いに試行したことを伝え合い、製作に必要な布の量を自分たちで明らかにできたことを賞賛する。</p>

指導と評価の計画（全9時間）

目標	物を出し入れしやすい袋の製作の仕方が分かり、ミシンを用いた直線縫いで製作をして、製作をした物を生活に生かそうとする。			
評価規準	(① 知識・技能) 入れたい物に合った袋の大きさの決め方や、ゆとりのもたせ方、ミシンの安全な取扱い方が分かり、ミシンを用いた直線縫いで袋の製作をしている。 (② 思考力・判断力・表現力等) 布を用いた袋の製作について問いを見出し、入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量やミシン縫いの仕方を考え、工夫している。 (③ 学びに向かう力・人間性等) 生活に役立つ布を用いた物の製作に関心をもつとともに、製作をする楽しさを味わい、製作をした袋を学校や家庭で活用しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
見 つ め る ・ つ か む	1	○布を用いた袋の製作に関わる疑問点や調べたいことを話し合い、課題をつかむ。 課題：「物を出し入れしやすく、入れたい物に合った袋をつくるには、どのようなことができればよいのだろう。」	○布を用いた袋の製作に関心をもって疑問点や調べたいことを考えられるように、物を出し入れしやすく、入れる物に合った大きさの袋を提示する。	◇布を用いた袋の製作について疑問点や調べたいことを記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
	1	○入れたい物に合った袋の製作計画を立てる。	○入れたい物に合った袋の製作をするために必要なミシン縫いの仕方や、製作の手順について考えられるように、袋の分解標本を用意する。	◇物を出し入れしやすく、入れたい物に合った袋の製作をするために必要なミシン縫いの仕方や製作の手順について考え、計画を記述している。 <学習プリント②>
追 究 す る	1	○試しの袋の製作をする。(本時)	○入れたい物に合った袋の大きさの決め方や、ゆとりのもたせ方を理解できるように、中に入れた物が透けて見える不織布とミシン縫いの代わりとするクリップを用いて入れたい物を出し入れを試行する場を設定する。	◇入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量を記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	家庭	○必要な材料や用具を用意する。		
	1	○しるしを付けて、布を裁つ。	○布を無駄にしないようにしるしをつけて裁つことができるように、試しの袋を布の上に置き、しるしを付ける位置を確かめる活動を設定する。	◇製作をする袋の大きさに合わせて、布を無駄にしない位置にできあがりや縫いしろのしるしを付けて、しるしに沿って布を裁っている。 <活動・布①>
	4	○ミシンで縫う。 ・試しの袋を縫う。 ・しるしを付けて裁った布のわきを縫う。 ・出し入れ口を縫う。 ・ひもを縫い付ける。	○ミシンの安全な取扱い方や、直線縫いの仕方を身に付けられるように、試しの袋や布を使った直線縫いの仕方を試行した結果と、目標とする状態とを比較して評価する活動を繰り返し設定する。	◇ミシンを安全に正しく操作し、直線縫いをしている。 <活動、布①>
ま と め る ・ 広 げ る	家庭	○製作をした袋を家庭や学校で活用したり、布を用いて他の袋の製作をしたりする。		
	1	○製作をした袋を学校や家庭で活用した感想や、布を用いて他の袋の製作をしたことについて話し合う。	○生活に役立つ布を用いた物の製作をする意欲をさらに高められるように、話合いの観点として、「自分で製作した物を実際に活用するよさ」を提示する。	◇学校や家庭で活用したことのよさや、布を用いて他の袋の製作をしたことの感想を記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言③>